



大分市立
鴛野小学校
学校だより

鴛野小通信

令和2年
9月17日(木)
NO. 19
発行者：板井勝博



子どもたちからのプレゼント！？

本当に涼しくなってきた今日この頃。朝も、交通指導員さんと「涼しくなりましたねえ」「この前までの猛暑がウソのようですね」と顔を合わせるたびに話しています。日中は残暑を感じるものの本当に爽やかで気持ちのよい気候となりました。(夜などは寒いと感じるときもあります。)

さて、交通指導で交差点に立っていますと、子どもたちが「校長先生、これあげる」といろいろなものを渡してくれます。そのたびに、「へえ～、すごいね!」「どこで拾ったの?」などと会話が広がります。下は、今までに子どもたちからもらったものです。



栗



どんぐり



梅



セミのぬけがら



タンポポ



やつで

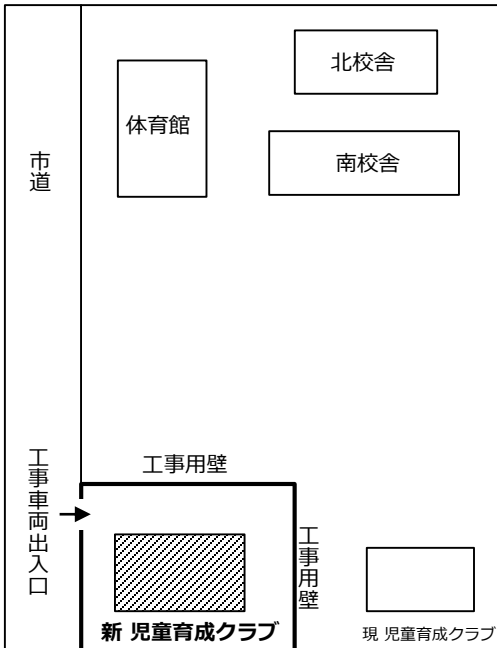
児童育成クラブが新しくなります

鴛野校区児童育成クラブが新しく建て替えられます。運動会後に工事個所を壁で覆い、その中で工事が行われます。

工事関係車両は市道から出入りします。大型車が頻繁に出入りするときは誘導員を配置するという事です。

完成は来年の1月はじめ、実際に使えるのは、もう少し後になります。

これに伴い、総合遊具(ジャングルジムや滑り台)なども移設されます。(場所は未定)



5・6年生と職員でテント立て

14日6時間目、運動会に向けてテント立てをしました。かなりの数のテントを立てますので、ある程度の人数が必要です。そこで例年通り5・6年生と先生方で立てることになりました。

テント立ての作業は、支柱運び、組み立て、屋根張り、立ち上げ、移動の5段階に分けられます。今回、支柱運び、組み立て、屋根張りを5・6年生と先生方で、屋根張り、立ち上げ、移動を先生方で実施しました。

一人では絶対にできないテント立て。今回も気持ちと心を合わせて14張りのテントを立てることができました。運動会に向けての準備がまたひとつできました。



朝の紅白リレーの練習です。テントもしっかり立っています。

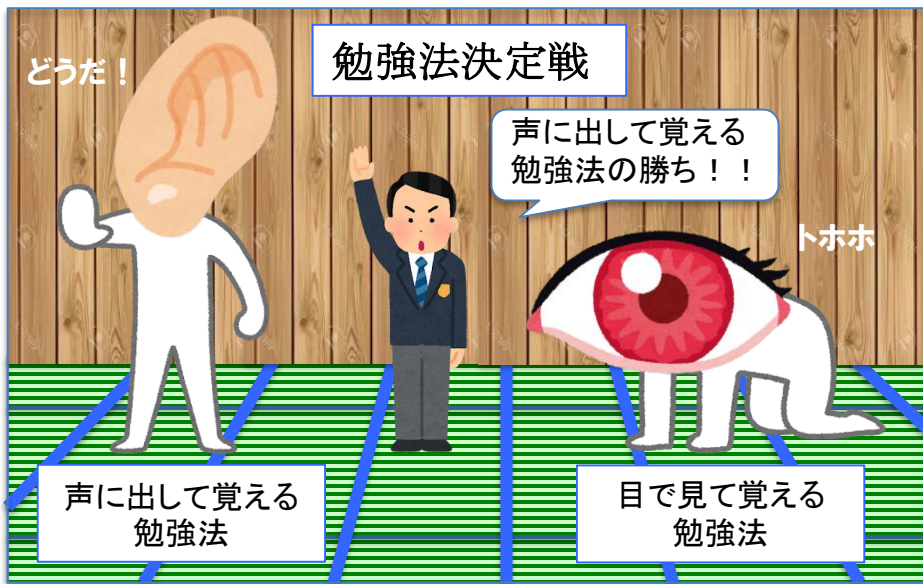


応援練習です。白組応援団も赤組応援団もがんばっています。



おしのおん2人(2羽)が手をつなぐと真ん中にハート(♥)ができることをある先生が発見しました。どこかわかりますか？

「声に出して覚える勉強法」と「目で見て覚える勉強法」はどちらがよいのか？



声に出して覚える勉強法とは、例えば覚える内容を声に出して読む勉強法です。なぜ、耳のイラストかということ、読むときに出した声を耳で聞くからです。声に出す勉強法は言い換えれば耳で聞く勉強法なのです。

目で見て覚える勉強法とは、暗記する内容をじっと見つめて覚えたり理解したりする勉強法です。

どちらの勉強法が有効かといえ、声に出して（耳で聞いて）覚える勉強法です。これまでの経験でなんとなく予想はつくと思います。ここでは、その理由をしっかりと理解しておくことが大切なのです。

【目よりも耳を使った勉強法が有効な理由】

秘密は脳の進化にあります。視覚が高度に発達したのは、動物の進化の過程では比較的最近のことです。実際にネズミやイヌやネコなどの哺乳類の視覚はヒトに比べて弱いことが知られていますが、聴覚はよく発達していて、遠くからかすかに聞こえる音を聞き分けることができます。つまり長い進化の道のりで、哺乳類たちは、目よりもむしろ耳をよく活用して生き延びてきたと言えます。（中略…板井）進化の歴史が長いぶん、耳の記憶は心によく残るでしょう。

左は『受験脳の作り方』（池谷裕二著・新潮文庫）からの引用です。（この本は小学校高学年から中学生の保護者の皆さんには超おススメの本です。）

私たち人間の脳は進化の長い歴史の上に出来上がったものです。ですから過去の記憶がいまだに色濃く残っているわけです。例えば、苦いものを口に入れてしまったときに思わず吐き出してしまうのは、苦いものには有毒なものが多いという記憶を進化の過程で獲得しているからなのです。また、私たちは基本的に暗闇を怖がりますが、これも同様です。

哺乳類の誕生



耳の進化の歴史は長い。それだけに聴覚の記憶は心に残る。



視覚が高度に発達したのは比較的最近のこと。

現在

哺乳類の歴史

【耳を使った勉強法とは】

- ・暗記すべき内容、理解すべき内容を声に出して自らの耳で聞くようにする。
- ・理解したこと、覚えたことを他人に説明してみる。（声に出して説明するので、自分の声を聞くことになる。）
- ・漢字練習では「イチ、ニイ、サン…」と筆順を口に出して言うようにする。（曲がるころ、はねるところなどで言い方を変える。）
- ・語呂合わせでの年号暗記など、何回も口に出して覚えるようにする。

人間の感覚は視覚と聴覚だけではありません。他にも嗅覚、味覚、触覚などがあります。できるだけ多くの感覚を利用して勉強するようにすることです。

例えば、漢字練習のときは前述のように、お手本の字を目で見て（視覚）、筆順を声に出しながら（聴覚）、鉛筆ではなく人差し指で直接机に書く（触覚）ようにすることで3つの感覚を使うことになります。

まずは、声に出して覚える勉強法に取り組んでみませんか。